

「価値創造」がカギ

観光カリスマ、春日俊雄氏

「今の時代、価値を作ることが大事。あるものを使い、新しい価値を作る。津南は心地よい風景や美しいもの、人の温かみがある。うらやましいくらいだ」。観光庁観光カリスマで、現在は新潟産業大学附属柏崎研究所 主席研究員・春日俊雄氏（旧高柳町・かやぶき集落荻ノ島代表）は今ある観光資源の豊富さに太鼓判を押し、どう今ある素材を生かし価値を創るかがカギと指摘した。

津南町観光協会総会の記念講演講師で来訪した春日氏。中子の桜、雪下にんじん、アスパラなど風景と食の豊かさを指摘し「住んでいる人は当たり前かもしれないが、自

然と人々によって造られた風景が残っている。40年余り高柳で地べたにはたつて来た人間からすると

すびくうらやましい」。階段状の河岸段丘、縄文時代から積み重ねられた暮らしと共にある風景は「これから新しく造ることはできないもの。他の地域ではみんな壊して近代化してきた。残っている津南の風土は日本にとっても大切なもの。『風土』と言うものが日本で

残っているのは中山間地ぐらい。だからこそ、我が国にとって観光の重要な要素になっている」と日本の原風景が残る中山間地の可能性に言及する。

「一方、人口減少が進む状況を指摘。『国は千年の歴史の中で、開闢以来の大人気減の時代。もうモノづくり日本では世界は席巻できない。今までの日本のありようが人口減で変わる』。定住人口が1人減少すると、年間消費額が130万円減る国試算を紹介し「外国人が8人観光に来ると、定住人口1人分になるとされる。観光は、人口減が進む地域経済への打撃を緩和できる」と、観光振興が地域経済底上げになることなど指摘し、今ある資源を現存に合わせ再構築し観光に活用する必要性を語った。



観光カリスマ・春日氏が講演

妻有新聞 2024年6月1日号